

2019年度（第8期）

事業計画書

自 2019年4月1日

至 2020年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

## 2019年度事業計画

2019年3月20日

公益財団法人 読売日本交響楽団

### (1) 事業契約金2億円カットへの対応

2018年度から母体3社の事業契約金2億円削減が始まり、増収、支出削減策を具体的に実行している。2019年度も、文化庁からの委託事業や依頼公演の強化、賛助会員の加入増などの増収策や、マエストロやソリストの人選や工夫したプログラムなどによる客演報酬の抑制、年間プログラムやチラシ、宣伝費の経費抑制など、支出削減策をさらに強力に進めていく。

### (2) チケット戦略

2019年度は年間通しの会員券割引率を、席種などによって4%から1%の幅で引き下げる。消費税が引き上げられた場合、増税分を上乗せして対応する。

2018年度演奏会の有料入場者率は、85・9%（3月5日現在、2017年度85・7%）、完売公演は、2017年度の29回を超えて38回を数えており、この好調を維持するとともに、さらに聴衆を呼び込む施策を模索したい。

### (3) 新指揮者の就任

ドイツ出身の名匠指揮者、セバスティアン・ヴァイグレが2019年4月、「第10代常任指揮者」に就任する。披露公演は5月の定期演奏会で、ブルックナーの交響曲第9番などを披露、2019年度は9月と2020年3月にも来日する。9年間の役目を終えたカンプルランは「桂冠指揮者」に就任する。また、2018年から首席客演指揮者に迎えた山田和樹は、2019年1月に読響デビューし、高い評価を受けた。

音楽之友社が主催する2018年度レコード・アカデミー賞の「特別部門 歴史的録音」にメシアン之歌劇「アッシジの聖フランチェスコ」が選ばれたほか、日本経済新聞の元旦特集で平成の第1位公演となるなど、読響の評価は年々高まっている。

#### (4) 南葵音楽文庫の活用

読響が和歌山県に寄託している音楽資料「南葵音楽文庫」は、2019年に約2万点に及ぶ資料の整理を終え、全資料の公開が可能となる予定。2019年は紀州徳川家400周年にあたることから、和歌山県は文庫の認知度と評価の向上を図るため、「南葵音楽文庫グランドオープン記念」と題して、様々な事業を計画している。読響は9月に県民文化会館で、モーツァルトの「ジュピター」などを披露するほか、東京でのシンポジウムや中央公論新社からの書籍出版などを実施していくという。読響は2019年度約10点の修繕を予定している。

#### (5) グループ内の連携強化

日本テレビの番組で流れる音楽録音が、2018年度に2度行われた。新元号の切り替わりに伴う録音で、5月前後から本格的に使用されていく。また、過去の音源を番組などで使用するため、整備・チェックした約80曲が日本テレビに渡っている。

今後ますます増えるインバウンド対策として、Japan Newsの紙面・オンライン上に演奏会情報や招聘アーティストの記事を掲載したり、読売旅行とタイアップして演奏会へ外国人を誘導するなど企画を検討していく。

## 事業計画一覧

<b>I. 自主公演（国内）</b>	<b>59回</b>
1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. みなとみらいホリデー名曲シリーズ	8回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブルシリーズ	4回
8. 特別演奏会	4回
(内訳)	
首都圏特別	2回
地方特別	0回
第九公演	2回
<b>II. 依頼公演</b>	<b>45回</b>
1. 首都圏公演	33回
2. 地方公演	10回
3. テレビ出演	2回
<b>I+II 合計</b>	<b>104回</b>